

昭和15年4月1日（月）

昨日の快晴に反し、此日降雨。永江氏の荷物、片付けあるも運搬に至らず。所在に堆積しあり。余の蒲団、巖の家から既に持運びありし。朝巖来たり。野口氏に手伝って貰ふ必要ありとて、自分の家より従前通り勤務方相談あり。之を光子氏に通ず。永江氏、荷物運搬終日かかる。二階も玄関も硝子戸を開き外したる儘、掃除もせず取残さる。野口氏、午後九時四十分頃帰宅。

昭和15年4月2日（火）

朝西牟田氏乗遅れバスにて駆付く。一時間延着。此の間為替組み来客多く、面喰らう。九十円貯金に対し預り符記入洩れす。生憎野口氏九時出勤。小野氏のみにて埒明かず、当惑せり。貢氏日中外出。貯金不符合の為、十時近く西牟田氏販る。60銭菓子求め、一同に馳走す。

昭和15年4月3日（水）

近所に対し転居の挨拶廻りに葉書10枚三軒、5枚二軒配る。神武天皇祭にて為替休み。西牟田氏、余独り留守の処に来たり。曩に受信機遣はしたる部分、所持行く。此の日、貢氏姉の母堂、巖に挨拶に行かる。タクシーを備ふ。即時払定款証に印洩れあり。南某を蒲鉾屋に訪ね、次いで巖に行く。明日の宴会のことを咄す。朝吹氏も連行の事を注意す。中島主事と打合せ。明日午後五時、耶馬溪倶楽部に決定する。是は貢氏と相談したるに、四日にして呉れとの要望に添えたるなり。時々雨。

昭和15年4月4日（木）

晴れたり曇ったり、午後より晴れ。四時髭剃りに出掛け

たるも満員。漸く天気になり、春の大売出しも今日を最終と人出急に増加し、理髪屋と謂わず各商店共大繁盛とて爰（ここ）でも大間諷付き。貢氏耶馬溪に行きし如し。四時二十分帰着。更に何処にか出掛けらる。余、水道の使用主の交代に伴う家主の承認を要する処から、序でに家主に行く。老母出て来たり。種々問題を提供し容易に埒明かず。よい加減に切上げ販る。秋永氏来局。一緒に出掛けんとしたるも、貢氏も見えず、ミワ氏の仕度も手間取る。秋永氏は先に遣り、余は次いで出掛く。定時に着。誰も来たり居らず。秋永氏に委細咄す。斯かる間、追々参集。中津局侶（とも）十一名、市内栄町欠、相談所島原氏追加。定員二十名。突当たりの一室を貸切り、定時に二十分遅れて開会。デザートコースに入り、余より挨拶。来賓一同、余の今回の催しに対し、如何なる意味かを不知。種々勝手の忖度（そんたく）を下し居りし如し。豊後町長はミワ氏の隣席にあり、早くも之を察知し「奥さんですか」と尋ぬ。此の時既に多数は之を知りつつも、表面に質問せざりしものと思料す。村上局長答辞を述べ、六時閉会。貢氏、六時二十二分発の列車にて福岡に向かわる。巖送る。会計54,40。此の夜支配人に支払う。夜半、酒一本求め母堂も交えて祝杯を傾く。風強かりしも、好天気なりしは嬉し。

昭和15年4月5日（金）

此の朝電報にて、東京峯氏、大連甚十郎氏、中尾宗一氏等に披露式挙行の旨を通知す。此の日夜来降雨。午後より曇り、寒し。此の朝道子等夫婦、福岡発岡山駅泊まりらしく、同駅より電報あり。無事旅行を続けつつあることに対し、一同と喜びを領ちたり。

昭和15年4月6日（土）

晴天。午後五時、夕食後外出。市内人出多し。大売出しの期日中サーカスもありてか。今は組合わせの木材のみが、淋しく面影を残し居れり。古物をあさる。高くて歯が立たぬ。時寶堂に立寄る。

昭和15年4月7日（日）

晴れ。朝寝坊し六時近く起床。小野氏友達と来たり。外出後、野口氏巖宅に行く。ミワ氏袴穿き、此の日より出局。切手の方を野口氏に聞き居る。五時より外出。古物漁る。電気スタンド1, 30と云ふ。何も求めず南京豆5合20、皆と頂く。野口氏夜になるも不販。小野氏待ち居る。独り夕食を済ませし如し。八時頃野口氏販る。夜、可なり冷ゆ。日曜なるも報告物等多数、四時まで挑戦。

昭和15年4月8日（月）

晴れ。各報告物、就中（なかんづく）、消耗品請求資料現在高調書進捗。照合半ばにして債券売渡し報労金来る。西中牟田氏ラジオ持参、不具合と云ふ。七時より中井指定商に持参。コード紐の電気接触点ショートし居る。スピーカー栓金物の緩みを修理す。一時間余にして完成。八時帰局。西牟田氏退局後、此の夜より気温上昇。貢氏安着の旨、電報あり。

昭和15年4月9日（火）

晴れ。午前十一時まで仕事す。報告物発送をミワ氏に任せ、佐世保かかり出発。車内珍しく混雑せず。三時二十分販宅夕食。髭剃り、五時の汽車にて出発。三時三十分

鳥栖まで準急、夫れより佐世保までは、駅停車に多費。長崎県に入り燈火管制。佐世保駅は闇黒。市内バスに乗るさえ頗る危険を感じず。徒歩にて赴く。浦田氏居らず。遅く共、飯るとのこと。十時過ぎ同氏来る。五円光子に遣り、浦田氏の為に酒を薦むることとす。此の日沿道桜花爛漫。夜、冷氣。

昭和15年4月10日（水）

晴れ、朝の間寒し。外出、市場を一巡す。九時頃漸く朝食。浦田氏来客多し。余文夫を招き、別室にて懇談す。過去を咎めるなど云ふ。過去を繰返してもだめだと云ふことは分かっている。過去の罪を持出しても、現在が善くなる訳はないからである。併し現在のお前を知る為には、過去を調べねばならぬ。現在は過去の延長である。過去を知って現在に及ばねばならぬ。過去を咎めるなど云ふことは、過去の罪を責めても取り返しが着かぬからである。況や今日改心して居る者ならば、過去の傷手を新たにすることは、徒に其の人を問へさせるのみである。お前の場合は違ふ。何等の反省なきに於いて、過去の罪に検討を加えて反省を促すのは至当と信ずる。過去を帳消しにすることは出来ぬ。最近は「やらぬ」と云ふ。「やらぬ」でなく「やりたくもやれぬ」のだろう。最近とは何かと反問すれば、一々言葉尻を捉えて理窟を謂ふなど云ふて、逆襲す。「其の態度が不遜だと云ふのだ」。以てお前は一家の柱石として責任の地位にある。大金を費消する前、今之を費消することに依り、一家は如何なる運命に逢着するかを考えてやったろうと思ふが、如何。将来如何にして経営の円滑を期せんとするかと尋ねたるに、一寸俟って下さいと階下に赴き、其の儘再び来たらず。

光子来たり、文夫は国防服に着換えて外出せりと云ふ。四時頃米倉氏来宅。同氏と話し七時頃夕食。酒肴を振る舞ふ。酒3円と2, 50とありて、3円のを求め来れる旨。燈火管制。余夕方辞去せんとす。是非泊まり呉れとのことにて十一時過ぎ寝る。浦田氏階下に行き南野子?と話し居らる。文夫来たりし由なるも其の儘余降りず。十二時頃寝る。

昭和15年4月11日（木）

四時起床。四時半仕度し階下に至る。光子起きて余を送る。文夫、他に職を求めて行かんことを建議すと云ふ。但し其れには多額の金を要すと云ふ。余、金の必要なし。旅費丈けあれば充分なり。若し金の必要を問題にするなら、それは泥棒に追銭と云ふもの。どうせ金が無くなれば帰って呉る。痴人だからそんな申し分に耳を暇すべきでない。真に他に職を求める積もりなら、予め先方の家やら内容やらを充分吟味の上出掛けべきだ。金を遣ることには不賛成だと云ふて、辞去。博多へ180五時十五分発、八時五分鳥栖着。八時十九分鳥栖発、九時五分博多着。竹下下車。九時二十分到着。澄子は昨夜、余の為に十一時過ぎまで待居りし由。不取敢、朝食を摂る。三谷から送付の青豆、今度にて没有。快晴。家の桃花満開。

昭和15年4月12日（金）

二郎より来信。三谷母堂を連れて平に帰り、一週間余泊めて、喜ぶ馳走をして遣るとあり。余返事と共に今回の件を一切通告す。道子より澄子へ宛てた手紙では、岡山と名古屋と各一泊したるが、名古屋は四円の宿料とあり。

此の日、下帯洗濯。湯暖房の湯を利用す。午後より曇り。十時頃藤岡より速達便。活動入場券二枚挿入あり。兩人して観に行き、余留守居す。三時すぎ販宅。

昭和15年4月13日（土）

年金受け取る。久子友達と花見に出掛く。余年金受取り、販りに古物屋に至り、電気スタンド1, 20と云ふを80、おろし金15にて求め販る。久子、南京豆一袋土産持参。浦田氏に委任状発送。参銭、収入貼付。夜、南京豆及び大豆皆食べ竭（つく）せり。三時半頃夕食。四時頃より外出、松屋に至る。雨模様、洋傘持参。電球60、30、20及び80、四ヶ1, 75。電気スタンド笠60、事務服4, 50を二着求めたり。雨漸く本降りらし。市場を通り、六時過ぎ販宅。

曇り、午後より快晴。此朝胃中の停滞物を掃除す。少し冷ゆ。火鉢に火を入れ向上誌を読む。睡魔襲来。午後外出。飯台1, 50と云ふ古物を1, 20と値踏む。1, 30と云ふ。更に住吉社、角の古物屋を訪ふ。応接台を兼ね、5, 50にて求め来る。交友会より葉書、出席を促し来る。欠席。夏蜜柑20銭四つにて求め来らせ、二つ頂く。久子飯台を梱包し呉る。

昭和15年4月14日（日）

曇り。暖房使用。火鉢に火を入れる。剃刀三提研ぐ。久子藤岡へ午後行く。白木綿注文したるに、白木綿は三尺と売らぬらし。午後四時過ぎ帰りて、デパート二軒廻りしも、売らぬとのこと。局の扉の幕にせし積もりなりし。楊子35求め、歯磨き粉は箕島バス停留所附近より大袋18求め来る。澄子、道子の為に陳弁大いに努む。庭前の

八重桜咲き初め、裏の桃花散り初めぬ。

昭和15年4月15日（月）

晴天。久子此日より、大学助手の助手として働くことになり、余と共に八時出発。余は応接台を擔ぎ徒歩、久子には他の持ち物を持たせ、電車にて駅に余を待居る。切符は時間切迫せざれば売らず。大分待たさる。1, 80は端数切上げ切り棄ての関係に因る。遍路多数吉塚駅下車。是れで多少空席を認む。立ち往生を免る。定時着。応接兼飯台は、野口氏駅より受取来る。報告物中、事務取扱数報告に対し督促あり。此日調査、発送未だし。菓子30求めしめ、夜頂く。野口氏にも頒與す。夜冷ゆ。

昭和15年4月16日（火）

朝冷ゆ。報告物発送。午後五時ミワ氏と公園に行き、販りに甘藷二百同拾銭と云ふを500匁、及び蒲鋒1本30を求め、余独り藤田湯に行く。一時間を費やす。中津にて風呂に業者に行く嚆矢なるべし。ミワ氏午前0時30分迄手紙書き。此日奥カツノを市内中殿に訪ぬ。不明の儘、帰局。大工、昼屋来る。

昭和15年4月17日（水）

朝来冷ゆ。晴れ。鑪（やすり）一20求めたり。電報書類差立て準備す。西中牟田氏、日附印18日として使用す。一時間後気付く。此日整理区局長会議、耶馬溪にて開催の筈なりしも、一日延期。

昭和15年4月18日（木）

午前晴れ。午前七時四五分発、ミワ氏に会議に臨席し貰

ふ。保険関係にて逓信局より臨席ありし。余駅にて切符往復求め、猶一類罰金参円と、新人入会の意味で七円寄附方申し出。午後四時着の列車にて帰着さる。柿羊羹三本、一本は局員に、二本は巖に遣ると云ふ。柿団子一折は母堂に土産に。而して余には南京豆一袋頂く。此日二時頃より降雨。洞門を觀て恰度開会の間合ひたりと。

昭和15年4月19日（金）

晴れ。木下氏に謝礼すべく此日午後五時頃電話せしに、既に帰宅後の由。後にて聞く。妹婿が死去したる由。ミワ氏巖方に愛子を見舞わる。余旗竿二本40求め、南京豆五合23求め帰る。

昭和15年4月20日（土）

山本利夫氏来局。菓子30求め遣わす。逓信記念日祝賀の意味を表現の為なり。四時より70を奮発して菓子を求め、局員に振舞ふ。午前曇り、午後降雨。朝寝坊し五時三十分起床。切手帖80求む。遅く起きた埋合わせに便所掃除す。晝屋来たり三拾円前金請求。ミワ氏国債売りに豊田町に行き、序でに甘藷求め来らる。一貫目50銭。大葱百匁20、胡麻求め味噌作り貰ふ。

昭和15年4月21日（日）

朝曇り、冷ゆ。巖十時過ぎ来局。愛子食欲なく困り居る旨、及び二十三日福岡行き等話し、蒲団持行く。昨残りの饅頭を持たせ遣わす。光子さん巖の要望に依り跟て行き、午後三時頃帰る。此日午後一時よりミワ氏と二階大掃除。数回繰り返し。光子氏来たり、貞子氏と拭き掃除。余水を隣家の井より汲み運ぶ。大車輪の働き終えて、午

後五時水浴。事務室も拭き清めらる。ミワ氏母堂と入浴。南京豆五合25求め、幾許（いくばく）を光子氏等にも頒與す。待望の大掃除が出来て心淨々し。

昭和15年4月22日（月）

曇りたり晴れたり、冷氣強し。東吉富局長、外国送り状借りに来る。少時話して退去。電報開始に伴ふ増員三分と云ふ。午後八時過ぎ、家主を代表合馬氏来局。借家証持参。畳拾六枚、其の他建具類にして家附きの物と認めたる分を掲記あり。右に対する写しを取り、之を木下氏に送り、保証人として連署して貰ふこととす。三ヶ年以内立退きの暁には百円提供の件には異議ありたるも、斯かる公序良俗に悖（もと）る契約は、民法上当然無効となる筈故、其の儘承認せり。夜は可なり冷ゆ。

昭和15年4月23日（火）

晴れなるも寒し。巖、朝来局。愛子腹部に膿を持てりとして、2週間位通院の要ありと。附添看護婦を捜し居る旨、語る。菓子購入土産に遣る。後刻再来、熱発38.7。老婆を物色、今夜より来たり呉るる筈。それまで野口氏の応援を希望。五時より行くことに承諾を得たり。畳屋来たり16半にて92円。曩に30円前渡しの為、後62円渡す。全部二階は此の日、半日にて完了。畳の出入りは二階硝子を取外したる上に於いてす。総額百円を超過せぬ範囲にて、階下の裏返しを委嘱す。午後六時庶務に電話。木下氏在局。先方より来るとの挨拶に、菓子30買ふて待つ。二階を見て貰ふ為にもと、最初に二階に案内の筈なりしが、夜に入り電燈の設備なき為、余の室に改めたり。七時来宅。合馬氏前日の来局の要旨、及び余答弁の要

領を通告す。謝礼出す。漸く納めて貰ふ。菓子を残らず土産に遣る。野口氏病人への氷を求めに市内に來たり。小野氏に電話す。老婆不來と云ふ。巖は野口氏と行違いに福岡に赴きたる由。大病人を措（お）いて出席する余裕あるは、人事ながら悲し。

昭和15年4月24日（水）

晴れ、午後より多少曇り。野口氏休暇。ミワ氏切手及び資金請求。巖の家にては老婆此の朝來たりし由なるも、不馴れに付き、野口氏に今少し居て呉れとのこと。野口氏午後一時頃一旦帰り、五時より再び手伝いに行く。巖九時の汽車にて帰着。林檎一籠持参。余九時就床。珍しく早寝して、珍しく起こされたるも可笑。小野氏外出。十時帰り玄関三疊に休む。鼠跋扈（ばっこ）して安眠を妨ぐる由にて、四疊半に寝ることを忌避するに至れり。鼠をして徒に其の跳梁に任すこととなる。呵々（かか）。

昭和15年4月25日（木）

靖国神社臨時大祭二日目。陛下御親拝。午前十時十五分、英靈12799柱を奉祠。国民一斉黙禱。朝より畳屋來たり。玄関3、座敷6、及び茶の間4、5裏返し。4半は古物持参。此の代金二円、計拾円支払ふ。此日より気温上昇。大掃除す。小野氏外出。野口氏帰宅。午後三時半、畳屋販る。六時ミワ子と一緒に卵十五1, 05求め、外に饅頭20土産に病氣見舞いす。販るさ玄関にて医師の往診に会す。少時戸外に俟つ。臙（やが）て医師の販るを擁して病人の容態を尋ぬ。樂觀的なり。併し重病と云ふよりは、心安く氣穩やかなり。氣途餡餅20求め、野口氏等に半分遣る。今朝林檎も一つ宛て遣る。此日黙

禱の時間を逸し、十一時十五分、改めて小野氏を交え黙禱す。

昭和15年4月26日（金）

朝晴れ、午後より曇り。貯蓄債券の報労金12円、銀行小切手にて交付あり。ミワ子に受取り貰ふ。永江氏に五円分配す。晝屋に拾円支払ふ。夜、合馬氏来局。家借用契約書携行せらる。

昭和15年4月27日（土）

曇り、後雨。借家契約書、木下氏に保証人として依頼す。電燈会社より来たり。二階及び公衆溜まりへの増燭申込に対し、工事着手。窓口の分は長尺を要するを以て、勝手口の分を充当せしむ。中津局より中野氏来局。例の価格表記問題に付き、当局に其の責任あるを言明す。余気色ばみ接問す。前日引受の書留参通を翌日まで掩留（えんりゅう）の事実判明。数通符合す。而して該価格表記は到着の形跡なしと認定。恰も余前夜八時過ぎ、残留の書留一通あるを目撃し、夫れが今朝一号便に不結束のこととなり居るを以て、直ちに野口氏を山本氏邸に抓（そう）し来局を求めたると行違いに、山本氏来局あり。事務室に通し、委細を筆記、身柄の引取りを要望す。同時に辞表を提出せしむ。森田典子を後任として照会状を発送。小野氏山本氏邸に赴く。西牟田氏パス遺失、九時過ぎまで居残る。小野氏と送別の晚餐を摂りたるものの如し。パスは駅構内にて発見せし由にて、駅にて保管せしありたる由。

昭和15年4月28日（日）

快晴。此の日一つ松局十年記念、及び弟中尉出征無事帰還自祝の二慶事に対し、郡内各局長を招待会開催に付き、我等にも招待を受け、正午のお使いなりしも、其の前部会を開催する為、午前十時に出席を求め来る。仍って九時半、髭剃り三四軒駆回り、本町角にて漸く、待たされずに済む店を尋ね当てたり25。十時十五分筑紫亭に赴く。五六名集会し居るに過ぎず。十一時より正午まで打合会、次いで一つ松局開局満十年祝賀、弟中尉戦傷帰還自祝とを兼ね、喜びを頒つ意味にて開演。一時半帰宅。秋永氏来局。二階案内す。六時ミワ氏風呂に行き、独り横臥し居る際、誰か音なう者あり。最初知らぬ振りして居りしも、余り執拗さに出て行く。何ぞ凶らん、唐津局の橋本昇氏ならんとは。座に請じ色々話し居る際、母堂等販宅。唐津焼土産持参。注文の雲丹持参さる。夕飯仕出屋より注文し1,00馳走す。二階に休ます。十二時過ぎまで、ミワ氏等二階に押掛け話さる。是も故郷の便りは誰も聞きたがるもの。永く唐津に住み、第二の故郷として、それからそれへと話しは盡きざりしも宜なりと云ふべし。十二時過ぎ、下りて寝まる。

昭和15年4月29日（月）

天長節、晴れ。福澤旧邸より公園地を経て帰局。十時十分発、急行にて宮崎に向かわるミワ氏、土産物選択し贈らる。人吉局の橋本氏とは、細君を媒酌し呉れたる恩人と云ふ。同氏を訪ふ積もりらし。後の便りに青島を訪ねたる由。西牟田氏来局、執務。夕方大阪の金光様へ、土産物買いにミワ氏行き、レモン菓子求め来たり。余の為に、剥ぎ南京豆求め来らる。野口氏の態度、淋し相。冷

気少々身に応ふ。夜、豆を頂きつつラジオを聴く。

昭和15年4月30日（火）

快晴、幾分暖かになる。朝ミワ氏切手請求。守谷氏及び永江シズメ氏、時を異にして臨局、窓口より余に挨拶さる。山本氏、小野氏の荷物受取りに来たりたり。小野氏は日本製鋼所小倉工場事務員、月棒35円を給せらるる由。山本氏の話。五時朝吹氏来局。折鞆の注文あり。夜十時過ぎまで、ミワ氏仕事を励む。押入中に南京豆一升45を見たり。俺の為に整ひ呉れらるること勿体なし。少し冷ゆ。式十円残り分、ミワ氏に交付す。